

平成 19 年 6 月吉日

各位

日本保険・年金リスク学会
研修会担当理事 金村・河野・清水

JARIP 平成 19 年度第 1 回研修会のご案内

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

日本保険・年金リスク学会（JARIP）の平成 19 年度第 1 回研修会を下記のとおり開催いたしますので、各位の積極的なご参加をお願い申し上げます。

敬具

記

1. 研修会の概要（詳細は別紙）

テーマ：ボラティリティ変動モデル入門

講師：渡部 敏明 氏（一橋大学経済研究所教授）

日時：2007 年 7 月 26 日（木）15:00～18:30

場所：住友生命保険東京本社 101 会議室（東京都中央区築地 7-18-24）

2. 参加申込

参加者のお名前・組織名・E-mail アドレス・電話番号および件名を「研修会申込み」と明記の上、E-mail にて J A R I P 事務局 担当：中村迄お申し込み下さい（申込切は、2007 年 7 月 23 日（月））。

E-mail: office@jarip.org

東京都千代田区丸の内 2-5-2 三菱ビル 9F 〒100-0005 京都大学経済研究所分室内

Tel: 03-3201-5051 Fax: 03-3201-5058

3. 参加費

会員：3,000 円、学生会員；1,000 円、非会員；10,000 円

（法人会員は、3 名までは 1 人当り 3,000 円、それ以上は 1 人当り 10,000 円となります）

注）個人会員・法人会員の参加費を、今回から 3000 円（前回までは 4000 円）に改定しました。

参加費は、研修会当日、会場受付にてお支払い下さい。

なお、領収書が必要な方は、必ず事前申込時に領収書の宛先をメールに記載して下さい。

以上

A. 講義概要「ボラティリティ変動モデル入門」

資産価格のボラティリティは価格変化率（リターン）の分散や標準偏差を表し、オプション価格や VaR の計算など現代の金融のリスク管理では重要な変数である。こうしたボラティリティの値は観測できないので、リターンのデータから何らかの方法で推定する必要がある。古くは、ボラティリティをある期間一定であると仮定して、その間のリターンの標本分散や標準偏差として推定していた。しかし、その後、ボラティリティは日々確率的に変動するという考えが主流となり、ボラティリティの変動を明示的に定式化する時系列モデルが数多く提案され、ボラティリティの推定や予測にそうしたボラティリティ変動モデルが用いられるようになった。最もよく使われているボラティリティ変動モデルは、ノーベル経済学賞を受賞した Robert Engle 教授によって提案された ARCH (Autoregressive Conditional Heteroskedasticity) モデルとそれを発展させたモデルである。本講義ではこれらのモデルを中心に解説を行う。ボラティリティ変動モデルにはもう一つ、確率的ボラティリティ変動 (Stochastic Volatility) モデルと呼ばれるモデルがあるが、このモデルは推定が難しいため、簡単な説明に留める。また近年では高頻度データが利用可能になってきたため、日中の（例えば5分ごとの）リターンの2乗を足し合わせた Realized Volatility (RV) と呼ばれる新たなボラティリティの推定量が注目を集めており、本講義では、こうした RV についても解説を行う。

オプションの理論価格の導出によく用いられるブラック=ショールズモデルは、満期までのボラティリティを一定であると仮定するので、ボラティリティが日々確率的に変動するのであれば正しくない。本講義では、ボラティリティが ARCH 型モデルに従って変動している場合のオプションの理論価格の導出法やブラック=ショールズモデルのような特定のモデルを仮定しないモデル・フリー・インプライド・ボラティリティ（実際に、CBOE(シカゴ・オプション取引所)の VIX(ボラティリティ指数)の計算に用いられている) についても解説する。

B. 講師プロフィール

わたなべ としあき
渡部 敏明 氏（一橋大学経済研究所教授）

1986年東京大学経済学部経済学科卒業。1993年イエール大学大学院経済学博士 (Ph. D.)。東京都立大学経済学部教授、日本銀行金融研究所シニアフェローを経て、2006年4月より現職。

主な著書・論文として『ボラティリティ変動モデル』（朝倉書店、2000年）、「A Non-linear Filtering Approach to Stochastic Volatility Models with an Application to Daily Stock Returns,” *Journal of Applied Econometrics*, 14, 1999, pp. 101-121, “Bayesian Analysis of Dynamic Bivariate Mixture Models: Can They Explain the Behavior of Returns and Trading Volume?” *Journal of Business and Economic Statistics*, 18, 2000, pp. 199-210 など。

C. 研修会日時：2007年7月26日(木) 15:00～18:30

D. 場所：住友生命保険 東京本社1階 101会議室（東京都中央区築地7-18-24）

（来客用入口から入り、L2階受付にお立ち寄り頂き、JARIP研修会に行く旨を伝えてください）

【住友生命東京本社へのアクセス】

- 日比谷線築地駅 1番または、2番出口より徒歩5分
- 有楽町線新富町駅 4番または、6番出口より徒歩10分
- 大江戸線勝どき駅 A1出口より徒歩8分
- 東京駅南口都バス乗り場より4号・5号系統築地6丁目バス停下車徒歩1分

以上

住友生命 東京本社

